http://enpukuji-aiikuen.com/　ホームページでもご覧ください。

（平成 30 年 4 月 10 日発行　月刊「円福」501 号付録　昭和 52 年 5 月 25 日第三種郵便物認可）

平成 29 年度の卒園式も盛大に行われました。卒園生の今後の健闘を祈ります。

おふいやり

№303
平成 30 年 4 月 10 日発行
社会福祉法人円福会
円福寺愛育園
園長　青谷幸治

新年度（創立 70 周年）

理事長　藤本光世

平成 30 年度が始まります。

平成 30 年度は、愛育園創立 70 周年の年です。創立 70 周年記念事業として、児童棟・管理棟の大規模改修と記念誌の刊行、そして記念式典を計画しております。

円福寺愛育園は昭和 23 年 5 月に初代園長藤本幸邦によって創立されてから、この間、たくさんの困難を乗り越えてきました。創立 50 年誌「大きな家族」に初代園長は三つの山と書いています。

第一の山は昭和 30 年代（創立 15 年ころ）にやって来ました。創立時の貧困を乗り越えて、戦災孤児はいなくなり、戦災孤児の救済のために創立した愛育園は不要になると考えていました。ところが、愛育園に入所する児童は増えることはあっても減ることは無かったのです。しかも問題を抱えて子が入所してくるようになり、愛育園はめちゃめちゃのなったのです。さしずめアノミー状態（社会規範の動揺や崩壊によって生じる混とん状態、あるいはその結果である社会の成員の欲求や降雨の無規制状態をいう。デュルケームによって提唱された）になったのでしょう。この時、初代園長は愛育園を教育的児童養護施設にする決意をしました。（16ｐ）

第二の山は平成の初年のころ（創立 40 年ころ）に来ました。昭和 50 年代に措置終了年齢が 15 歳から 18 歳に引き上げられて、高年齢児童が入所するようになりました。学校内暴力、家庭内暴力が全国的にはびこり、施設児童が高年齢化して、大きな問題行動が続出するようになりました。児童は暴れ、施設は荒廃し、職員が一度に 10 人も辞めてしまったのです。（20ｐ）

第三の山は第二の山の克服の中で表れました。初代園長は 80 歳を超えて、創立 45 年から 50 年のころと思われます。（創立 50 周年の時は 88 歳でした。）初代園長は再度愛育園に乗り込み、子どもの教育をしようと思ったのです。しかし、子どもは言うことは聞きません。さらに逃亡する子どもも出るようになりました。

私が、平成 20 年度に愛育園を引き継いだ頃、第二第三の山は、乗り越えられていたどころか、さらに大きなものになっていました。その混乱まさにアノミー状態は、創立 65 周年記念誌「愛の花園」（平成 25 年刊行）や平成 24 年度からの実践の記録「愛の花園」に書きました。第四の非常に大きな山と言っても良いと思います。

今、愛育園は第二第三第四の山を乗り越えてあります。しかし、状態はいつも動いています。気をゆるめるとすぐに元に戻ってしまう。児童養護施設の仕事の困難さは、常に付きまとっています。

社会的養護についての国の施策は家庭的養護に大きく舵を切りました。この問題はここになって始まったわけではなくて、初代園長は昭和 40 年代の清泉女子保育専門学校の児童養護の講義ノートの中に、社会的養護の手段を 1　里親　2　家庭養護寮（小規模グループホーム）　3　小舎制　4　大舎制の四つに分けて、この順序が決定的ならば施設は児童にとって最低の養護手段となるわけである、里親、小舎制の長所は認められるが、その方式は絶対ではない、と書いています。

家庭的養護推進の国の施策の中で、円福寺愛育園は児童の最善の利益のために、どのようにして家庭的養護を推進していくか、これが 70 周年を機に問われていると思います。

児童養護施設は社会変化の波を大きく受けます。子どもの最善の利益の児童養護という困難な仕事を切り拓くことが愛育園に課せられている使命と思います。70 周年を愛育園の再スタートとして、職員は力を一つにしてこの貴い仕事に励んでいただきたいと願います。

新年度を迎えて

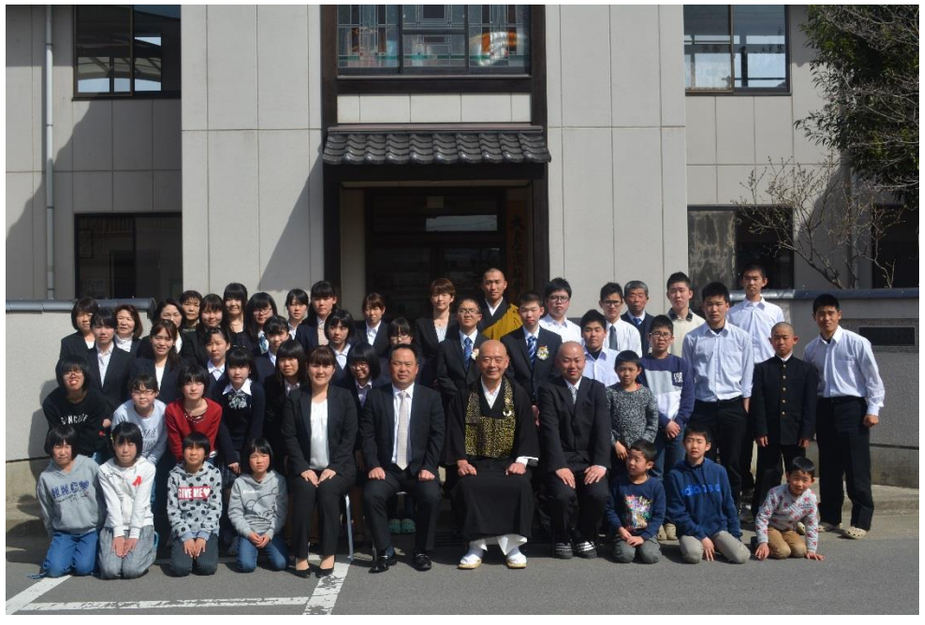
園長　青谷幸治

3 月 24 日、4 名の卒園生を社会に送り出すことができました。4 名の中には 16 年もの間、園で生活した児童もいました。それぞれ立派に愛育園を卒園し、社会に巣立っていきました。私たちは親ではありませんが、一緒に寝食を共にし、一緒にディズニーランドやキャンプに行き、お互い悩みながら進路について考えてきました。自分の子どものように真剣に語り合い、時には本気で怒り愛育園で生きた養育をしてきました。だからこそ、寂しさや社会に出す心配があり思い出せば自然と涙が出てしまいます。それぞれが家庭の事情を抱えながら、子どもたちにはどうすることもできない状況の中、愛育園の生活を通して自立してきました。まだまだ未完成ではありますが社会に出し、

アフターケアという形で今後も支援していきたいと思っています。卒園生が社会に貢献できる日を楽しみにしています。

昨年度、卒園した児童をはじめ近年では子どもたちが愛育園にいる意味を理解し、自分のために目標を持ち落ち着いた生活を送ることができています。愛育園は自分の家ではありませんが愛着をもって、そして誇りを持って暮らしています。上級生からの圧力がなくなり、悪しき伝統であった力のピラミッドがなくなったこと。職員が子どもたち一人一人と真剣に向き合い関わりが増えたことで子どもたちと職員の対立構造も減りました。子どもたちの目の輝きが変わってきました。この 6 年間、子どもたちが自信をもって卒園できるように普段の生活から自立に向けた養育に取り組んできました。①夢をもつ②日課に沿った生活（規則正しい生活の習慣化）③行事に力を入れて取り組む。この３つの養育の柱を子どもたちと関わる時に常に意識していました。今では不登校はいません。ほとんどが皆勤を目指して登校しています。学力もついてきました。身長や体重も目を見張るほどの成長です。子どもたちの穏やかで柔らかな表情が、養育の環境を作り上げてきた証になっています。

どんな子どもでも、はじめは好きで愛育園に来たわけではないと思います。しかし、愛育園が最低な場所。どうしようもない子がくる場所。ではありません。愛育園は家ではありませんが、ご縁があってきたのです。だからこそ私たち職員は、子どもたちには「家では生活できなかったけど、愛育園で生活できたことも良かった。」と思って社会に巣立っていく場であり続けたいと思いで養育環境を作っています。だからこそ、現状に満足せず油断せず、今まで取り組んできたことを継続しながらしっかりと子ども一人一人と関わり、育てていきたいと思います。



昨年度も法人役員の方々、児童相談所をはじめ関係機関の方々、地域の方々、学校の先生などいろんな方にご支援いただいたこと誠に感謝申し上げます。そして、また今年度も引き続き子どもたちのためにご支援、ご指導をよろしくお願いします。

卒園式

主任保育士　石崎　早織

３月２４日は円福寺愛育園の卒園式が行われました。今年は４名の卒園生を送り出しました。私の担当児童も今年卒園式を無事迎えました。担当の N さんとは高校一年生の時から担当を持ち、３年間一緒の時間を過ごしてきました。中学生の頃は人間関係を築くことが苦手で、高校に入学する時もうまく人間関係が築けるのか私自身も心配していました。しかし入学してから卓球部に入部し、部活を通してたくさんの人間関係を築き、クラスにも友達ができ、楽しい高校生活を送る事が出来ており、すごく安心しました。また部活動を引退してからはアルバイトにもはげみ、卒園にむけて自立するためのお金も貯めました。この３年間で彼女自身すごく成長をしたように感じます。それは彼女一人の力ではなく、お友達や学校の先生方、バイト先の方々、そしていつも支えてくれた愛育園の先生方のおかげだと思います。部活を通してやり切ることの大切さ、バイトを通して働く事の大変さなど本当にさまざまな場所でたくさんの経験が出来た事が彼女を大きくかえる事が出来たと思います。社会に出ればたくさん乗り越えないといけないことも多いですが、今の彼女なら一つ一つ前に進んでいけるんじゃないかなと思います。今まで支えて貰った方々に感謝し、それを力に変えて立派な社会人になってほしいと思います。

最後に N さんご卒園おめでとう！！

平成 29 年度　卒園式

主任指導員　冨沢正樹

3 月 24 日、卒園式が行われました。今年は 4 人の高校 3 年生が園を巣立っていきました。卒園式に向けて、卒園児童の 4 人はもちろん、在園児童のみんなも式の準備やお手伝いを積極的に行ってくれました。

みんなで作り上げた卒園式は、とても心のこもった温かい式になりました。卒園児童の 4 人が、園を出ていく寂しさや、これまでの感謝を涙ながらに素直に伝えている様子があったり、在園児童もお別れするのが寂しくなって、涙を流す子もいました。私達職員も式の終わりに担当児童への手紙を読むと、みんなで涙を流していました。

卒園式という場で、みんなの気持ちが素直に出てくることがとても嬉しく感じました。それは、そこに今年一年の愛育園の取り組みが凝縮されていると思うからです。

私が担当した S 君も、今年 1 年は、たくさんの出来事がありました。その中には、進学希望の学校に不合格になってしまった事や、本人が猛省しなければいけない出来事を起こしてしまった事もありました。その後、必死に頑張ったからこそ、良い形で卒園していく事ができたと思います。中途半端に、陰に隠れて過ごしていれば、あんなふうに送り出してもらう事は出来なかったでしょうし、堂々と胸を張って卒園をできたのは、彼が本気になって頑張ったという事に尽きると思います。

そこに到るまでは私も相当にエネルギーを使いましたし、お互い気持ちが途切れてしまう可能性もあったと思います。「やり切る」という事がどれだけ価値のある事か、この卒園式のおかげで改めてわかりました。S 君も 16 年間過ごしてきた中でも、非常に内容の濃い一年間になったのではないかと思います。

また新たな一年が始まり、高校 3 年生になる児童が 2 名います。目の前の事を一生懸命頑張って、今回の様な卒園式が行えて、2 人を送り出してあげたいと思います。

支援、応援をして頂いている皆様の力があって、立派に卒園していける児童が増えている事、心から感謝しております。今後ともよろしくお願い致します。

平成 29 年度愛育園卒園式

まごころ保育士　渡邉梓

3 月 24 日に 4 名の児童の卒園式が行われました。この日は天候にも恵まれ、たくさんの来賓の方々にお越しいただき、体調を崩す児童もいなく、厳粛な中にも温かさのある卒園式となりました。

卒園生たちも、清々しい気持ちで胸を張って卒園することが出来たのではないでしょうか。

私は今年一年間、K さんの担当になりましたが、今振り返ってみると、本当にあっという間に一年が過ぎてしまったように感じます。私自身、高校のこと、進路のことなど分からないことが多く、分からないまま突っ走ってしまったり、逆にそのままにしてしまったこともあり、その度に K さん不安な思いをさせたと思います。特に一番本人も不安だったであろう就職活動で、はじめに受けた会社から不合格通知が来たときは、とても後悔しました。その日の夜、泣きながら「美容師になりたい」と言った彼女のことを見て、もっとしてあげられることがあったのではないか、自分がもっとしっかりしていればと何度も思いました。就職先から内定をもらった時は K さんが夢へ一歩近づいたのだと思うと本当に嬉しかったです。この一年で K さんにとって良いことも悪いこともありましたが、たくさんの先生方に支えられ、無事卒園することが出来たこと、希望を持たせて送り出せたこと、本当に良かったと思います。私自身、卒園生を担当に持たせてもらうことの責任、大変さをこの一年で学びましたが、卒園式を通してその責任や大変さがやりがいに変わりました。

（平成 30 年 4 月 10 日発行　月刊「円福」501 号付録　昭和 52 年 5 月 25 日第三種郵便物認可）

卒園生を送り出し、少しさみしくなってしまいましたが、園にいる子の一人でも多くが卒園生のように自分の夢や目標に向かって頑張れるようサポートしていきたいと思います。

平成 29 年度愛育園卒園式

あおぞら保育士　佐々木　弘観

3 月 24 日に卒園式が行われました。今年度は 4 名の児童が卒園しました。当日は晴天にめぐまれ、多くのご来賓の方々にお越しいただき、またこの日に向けて在園生みんなで壁面や看板、掃除などの準備に取り組み、盛大に卒園式が執り行われました。

私は今年、卒園する S 君の担当になりましたが、卒園生の担当は初めてでした。進路や学習面で中々上手くいかず、自分の力不足を痛感し S 君自身も不安にさせてしまっていたと思います。

卒園式当日は、これまで厳しい事を言ったり、励ましたり、一緒に笑ったり泣いたり、行事や普段の生活、多くの S 君との関わりを思い出しました。この一年、卒園生を担当に持たせていただき、その責任の重さや送り出す事の大変さばかりに追われていましたが、当日無事に送り出せたこと、S 君が立派に笑顔で卒園できたことに非常にやりがいを感じることができました。

在園生達も卒園生達のために、たくさん準備をしてくれました。愛育園全体で卒園生達を気持ちよく送り出せたと思います。

もうすぐ新年度が始まります。在園生達も今年の卒園生の様に、夢や目標に向けて頑張っていけるように全力で支援していきたいと思います。

在園生代表挨拶

高 3　H.A

卒園生の皆さん、ご卒園おめでとうございます。

卒園生の皆さんは、愛育園の様々な行事で先頭に立ち、自分達在園生を引っ張ってくださいました。

その中でも、愛育園祭での皆さんの姿は、とても印象に残っています。

愛育園祭では、初挑戦となるペンライトダンスをやりましたね。皆さんは、率先して練習に取り組んだり、年下の子が分からない所があると、丁寧に教えてくださいました。僕自身も部活で、中々練習に参加できませんでしたが、本番までにしっかり踊る事ができるようになったのは、そんな皆さんの姿勢があったおかげだと思います。

本番も、皆さんが堂々と踊ってくれたおかげで、自分達も緊張せずに楽しくペンライトダンスに集中する事ができました。

また、ダンスの中では、卒園生の皆さんだけで踊るパートもありました。全体練習が終わった後も練習を重ねていました。失敗や苦労を乗り越えて、本番では堂々とした踊りを見せてくれて、本

当にカッコイイと思いました。

自分は、４月から高校３年生になります。そんな皆さんの後姿を見ていて、僕自身も皆さんの様に一生懸命頑張って、年下の子たちが「スゴイ！」と思ってもらえる様に、先頭に立ってやっていきたいと思っています。

最後になりますが、これから皆さんは社会に出て行きます。社会に出れば、これまで以上に大変な困難があると思います。

でも、皆さんなら、愛育園で学んだ事や、たくさんの経験を活かして、活躍してくれると信じています。

皆さんが頑張っているという話を聞いたり、姿を拝見した時、僕達在園生にとってそれが大きな励みとなります。「負けるもんか」と一層日々の生活に取り組んでいけると思います。

社会出て皆さんのご活躍を在園生一同応援しています。

皆さん、頑張ってください。今までありがとうございました。

円福寺愛育園少年少女野球団卒団式

主任保育士　石崎早織

３月４日は少年野球の卒団式が行われました。今年度の４月から少年少女野球団のチームを作りあっという間に１年が過ぎてしまいました。このチームは低学年が多く、４月当初はチームとして成り立っていくのか等不安がありましたが、日詰コーチを中心に保護者の皆様にも全力で協力していただき、１年間やり遂げることができました。ありがとうございました。卒団式ではキャプテンを務めてくれたH君にみんなからお礼のメッセージの寄せ書きと写真たてをプレゼントしました。みんなのメッセージを見ると、ちゃんとキャプテンとの思い出や、キャプテンの姿をよく見ているんだなーとわかるようなメッセージがたくさん書かれていました。まだチームが出来て１年しか経っていませんが、チームの雰囲気が少しずつ出来てきているように感じました。来年度は今よりも少しチームの人数は減りますが、これからも道具を大切に、仲間を大切にできるチームを目指し頑張っていきたいと思います。

少年野球　卒団式　児童感想文

H・A

３月４日に少年野球の練習の後に卒団式がありました。まずはスライド上映がありました。少年野球の今までの写真がたくさんでてきて、すごくよかったです。スライド上映が終わると次は監督のお話、コーチのお話がありました。キャプテンとしてすごく頑張ってくれた。と言われたのでとても嬉しかったです。その後ぼくが話す番でしたが、緊張して言葉があまりでてきませんでした。ですが、引きつぐ人たちに思いを伝えられたと思うので良かったと思います。

その後、目覚まし時計や皆のメッセージが入ったボールなどをもらいました。とても嬉しかったです。そして今度はぼくからお世話になった日詰コーチにメッセージボールを渡しました。とてもいい卒団式をしてもらってうれしかったです。

『高校受験を終えて』

まごころ保育士　竹内早季

今年度、受験生のＹさんを担当に持つことになり、年度当初は正直不安でした。なんとしても高校に合格させなければという思いも強く、そのためには学習に力を入れないといけないと考えていました。はじめはただ学習させないと合格させられないとばかり考えており、もともと学習に対して苦手意識をもっていたＹさんにとって私からの声掛けはうっとおしいものだったのではないかと思います。それに、はじめは点数を取らせることに必死で満遍なくあれもこれもやらなきゃと学習範囲も広げていました。自分ばかり焦っていてＹさんの受験に対する気持ちや不安までを考える余裕も無く、意見が合わずに衝突したことも何度もありました。なかなか自分の気持ちを言葉にするのが苦手なＹさんが黙り込み、下を向く姿も何度も見ました。勉強だけではなく、生活の中にも様々なトラブルがあり、心が落ち着かない時期もありました。その中で、Ｙさんが自分で「素直に話を聞いて、本気で学習に取り組む」と宣言するようになるまでに、園長先生や主任の指導も入り、時間をかけて自分のために頑張っていけるよう話をしてきました。毎日の学習計画も立て、Ｙさんができる範囲に絞り、確実に点数を取れるよう考えました。目標を決めたり、取り組みの中で頑張っているところを認めたり日々関わる時間を増やそうと心掛けました。その結果、提出ノートも毎日出せるようになったり、休日は７時間学習できるようになったりと少しずつＹさん

にも変化が見られました。入試が近付くにつれて不安も大きくなり、涙するときもありましたが、入試前日に今まで頑張れたこと、感謝の気持ちを聞くことができて本当に嬉しかったです。当日も今までに無いくらいの緊張した表情で臨んでいましたが、最後までやりきったＹさんは今までよりも高得点で合格することができました。１年間、私自身も受験を通して自分の関わりについて考えることが増えました。子どものやる気を前向きにすることの難しさも本当に感じました。たくさんの先生方にも助けていただきました。高校には無事合格できましたが、ここからがまたスタートだと思い、進路に向けて一緒に考えていけるようにしていきたいです。

高校受験を振り返って（M・H）

あおぞら保育士　佐々木　弘観

僕は最初長野高校に合格することを目標に日々勉強に取り組んできましたが、自分自身の弱さに負け、受験生としての自覚のないことを繰り返していました。その都度担当の先生は自分に付きっ切りで指導してくれました。そして自分の本当の弱さが分かりました。その日から自分の一番弱い所でもある「心」を強くすることを目標に毎日さまざまなことに取り組んできました。そうすることで少しずつ成績も伸びていきました。最初は勉強で点数を取れれば志望校にいけると思っていましたが、多くの先生達から「勉強だけできればいいというわけじゃない。人のために尽くせることの方がよっぽど大事だ」言われました。その後も心の弱さに負けて先生達を裏切ってしまったこともあります。それでも担当の先生は最後まで自分の事のように考え、ずっとそばにいてくれました。

テストの点数に伸び悩み、自分の力ではどうすることもできなくなり塾に通わせてもらうことになりました。塾ではたくさんの事を学べて受験にとても役に立ちました。入試当日は思うように力が出せず、合格発表まですごい不安でした。もし落ちてしまったら・・・そう思った事は少なくありませんでした。合格発表当日、自分の受験番号を見つけたときはとても安心しました。第一志望の長野高校ではありませんでしたが、第二志望の屋代高校に合格できたのでよかったです。

この１年間は迷惑ばかりかけていました。自分の進路を本気で考えてくれた園長先生や担当の先生、多くの先生達が時には厳しく、時には優しく接してくれたからこそ１年頑張れたのだと思います。特に担当の先生には自分の性格や弱いところなど自分では気付けないような事まで教えてくれました。今の自分は担当の先生がいたからこそだと思っています。改めて感謝を伝えたいです。

４月からは高校生になります。勉強は難しくなり、ペースも速くなります。部活動は始めてのハンドボールをやりたいと思っています。高校生活に不安もありますが、頑張り続ける事が今まで支えてくれた先生達に対する恩返しだと思います。

勉強と部活動の両立は大変だと思いますが、頑張っていきたいと思います。

雪合戦全国大会

あおぞら保育士　佐々木　弘観

３月３日に白馬村のジャンプ競技上にて行われた、第５回日本雪合戦選手権大会に参加してきました。昨年に続き２回目の参加になりますが、昨年は推薦枠での出場でしたが、今年は１月に飯縄で行われたエキサイティングスノーバトルにて３位入賞を果たし、全国大会への出場権を獲得しました。

この日に向けて道具を借りてきたり、昨年以上に細かいプレーの１つ１つを何度も確認したりと、練習を積み重ねてきました。

しかし、やはり全国大会の壁は厚く、１回戦目では惨敗、２回戦目も惜しい場面はいくつかありましたが負けてしまいました。ですが、昨年よりも確実にレベルアップしています。雪球作りから試合まで子ども達と職員皆で一致団結して目標にむかって取り組めたのはとてもよかったと思います。

また、愛育園は他のチームと違うところがあります。それは、毎年メンバーの入れ替わりがあるということです。競技者は中学生以上というルールがあります。卒園する高校３年生は抜け、新たに中学１年生がメンバーに入ります。今年は初参加の子達に昨年の経験者が丁寧に教え、引っ張っていく姿がありました。そうして子ども達は、マナーや態度、取り組む姿勢、礼儀、試合に勝つ以外にも様々な事を学んだ冬になりました。来年も全国大会を目標に皆で頑張っていきたいと思います。

あおぞらホームだより

あおぞらホーム　近藤誠志郎

3 月 24 日に卒園式がありました。あおぞらホームからも 2 人の卒園生を送り出すことになりましたが、送り出される 2 人、送り出す在園生の子ども達ともに笑顔あり、涙ありでとても良い卒園

式だったと感じます。そして、卒園式が終わり、いよいよ新年度を迎えようとしています。あおぞらホームでは、この春から高校生になる児童が 1 人、中学生になる児童が 2 人います。それぞれが新しい場所に進む不安を抱えていますが、それ以上に「この部活動に入りたい」や「こんな勉強がしたい」と言った前向きな言葉もあり、楽しみにしている様子が見えます。高校生になる H 君、中学生になる H 君、O 君、みんなそれぞれの道があるかと思いますが、何事にも全力で向き合い、卒業する時に良い 3 年間だったと思えるような、そんな毎日にしてもらいたいと思います。また、中学 3 年生になり、受験生となる児童が 2 人います。1 月や 2 月になり「もっと勉強しておけば良かった」と思わないよう、今の時期から受験と向き合って頑張ってもらいたいです。そして高校 3 年生になる A 君、最後の 1 年となる高校生活を悔いなく生活し、笑って卒業式、卒園式を迎えてもらいたいです。慌しくなる 4 月だと思いますが、子ども達、職員、全員が良いスタートを切れるよう、準備を進めていきたいと思います。

まごころホームだより

まごころホーム保育士　加藤ゆかり

暖かい日が増え、春めいた気候となってきました。子ども達は毎日元気に外で遊んでいます。

今年度も終わりを告げようとしています。今年度は、小学校 2 名、中学校 1 名、高校 2 名が卒業しました。私が子ども達と出会ったのは 2 年前でしたので、月日が経つのは早いなぁ、成長したなぁ、と思うと同時に、嬉しさや寂しさも込み上げてきました。

また、高校生の N さん・K さんの 2 名は卒園の年でもあります。3 月 24 日には卒園式があり、子ども達や職員に見守られる中、立派に巣立っていきました。卒園式の日まで、新生活の準備を担当職員と毎日忙しく進めてきました。社会人 1 年目であったり、一人暮らしがスタートしたり、環境がガラッと変わるので、不安もたくさんあると思いますが、是非頑張ってほしいと思います。

中学生の Y さんは、無事高校に合格することが出来ました。高校入試の前日まで、受験勉強を本当によく頑張ってきました。本番では、今までのテストよりも高得点を取ることが出来、合格することが出来ました。今までの努力が実り、合格出来た、という自信を持って、自分の夢に向かって頑張ってほしいと思います。

4 月からは新学期が始まります。1 年間の目標をきちんと立て、それぞれが自分の為に努力し、大きく成長出来る 1 年であってほしいと思います。

調理室だより

栄養士兼調理員　原　未華

厳しい寒さが終わりを告げ、暖かい春の季節を迎えました。先日の当園で行われた卒園式は本当に感動しました。4 人とも春からは社会人として頑張ってほしいと思っています。また、当園の子でも新しく中学生、高校生になる子がいます。少し環境が変わってしまいますが、新しい学校生活を楽しんでもらいたいです。

今年度も調理はいつもと変わらずに食を通して子どもたちの支えになっていきたいと思います。日々の業務では、気持ち良く朝がスタートできるように温かい朝食を、今年は今年で出来るだけマンネリ化がない新しい献立を取り入れ、嫌いな物を少しでも克服してもらえるような献立の工夫、子どもたちの期待に応えられるような食事作りを常に意識して提供していきます。当たり前を当たり前に、子どもたちの健康を一番に考え、新年度もお互いに助け合いながら、声をかけ合いながら毎日の業務に励んでいきたいと思います。

園行事やホーム食などを子どもたちと関わる機会を大切に、調理の方でもできることは協力させていただき、楽しい時間を一緒に共有したいと思っています。

また、誕生日メニューも引き続き、実施します。４月生まれが４人いますので、どんな誕生日メニューをリクエストするか、どういった誕生日メニューになるのか楽しみです。平成３０年度も子どもたちの成長を陰ながらも見守っていきたいと思います。よろしくお願いします。